

＜本ギャフユーザーに対する助言＞

本ギャフを使いこなす為のコツを下記します。これはマニュアルや各ビデオでちゃんと説明又は公示していることですが、購入者の一部の人がこれを理解しておらず、その結果使いこなせていません。

1) ロープ操作は必ずリールハンドルを操作する手と同一で行う。右ハンドルの場合は右手で、左ハンドルの場合は左手でロープを操作。←これをちゃんとやらないと本ギャフでのギャフ掛けは難しいものになります。

右ハンドルの場合：魚がドラッグを引き出し、リールを巻く必要が生じた場合は、右手の平の奥側に薬指と小指でロープを掴み、外側（右手指先側）で右手親指、人差し指、及び中指でハンドルを掴み、ロープを持ったまま、右手でハンドルを回して、道糸（＝魚との距離）を詰めます。ロープを出しすぎた時は、右手でロープを引き、其れを、竿を持った左手（竿は小指、薬指、中指及び親指基部で持つ）の、親指先及び人差し指で挟み（中指又は薬指に掛けてもよい）、竿に押し付けることにより一時保持し、再び右手を伸ばし、ロープを引く・・・こうしてロープの間合いを詰めます。

2) 魚を掛けるときのロープの弛み⇄張りについて：ロープは合わせを入れる時のみ引っ張りますが、それ以外は常に十分すぎるくらい弛んでいなければなりません。これがビギナーはできません。引っ張ってしまっています→ギャフが魚の下に行っていません。水面は上下しますので、仮に魚が静止していたとしても、釣り人と魚との距離は常に変わり、水面が低位置に在ったとしても、ガイドが魚に届き、且つギャフがガイドに完全にぶら下がっているためには、十分なロープの弛みが必要（→シイラビデオ3、2：13前後参照）。ロープを張り気味にして引っ掛けようという考えは基本的に間違いです。すなわち右斜め下から左斜め上まで、右手で大合わせをしたとして（＝1ストローク＝130～140cmとして）、最初の60～70cmはギャフが動かないデッドストロークであり、残りの60～70cmでギャフを掛ける感じです。（右ハンドルの場合）右手でのリールの巻き、ロープのたぐり寄せを状況に応じて、繰り返す、ギャフ掛けに至ります。

3) 引き上げに関して：ギャフが掛ったなら、出来れば強い合わせを入れ、ギャフを貫通させます。引き上げは、第一弾としては（右ハンドルの場合）右手でロープを引き、次に其れを、竿を持った左手（竿は親指と人差し指の内側基部で保持）の小指、薬指、中指及び人差し指（小指が下側＝魚側で人差し指側が上＝竿先側）で竿と一緒に握り、引き上げ、更に今度は右手で・・・これを繰り返す（→シイラビデオ4、5、6-1）/ -3）及び7参照）。慣れてくるか、又は慣れてなくても魚が大きく竿を持ったままでは魚を上げられない場合は、第二弾として、荷重が掛かったロープを引っ張った右手（ロープは小指、

薬指、中指及び親指基部で保持)の親指先及び人差し指で、(左手で持った)荷重が抜けた竿のリールベールを起こして、ラインをフリーにした上で、竿を横に置き、両手で引き上げを開始する(→シイラビデオ6-2)及び8参照)。ラインをフリーにしないで竿を置くと、万一引上げ途中でギャフが外れて魚が落ちた場合、竿を失う事になります。また、引き上げ時に邪魔になった竿を股に挟むクロ釣り方式は絶対やってはいけません・・論外(→大物相手には膝はくっ付けられないし、危険)。

マニュアルに詳述している事前の「ロープしごき」(→シイラビデオ5出だし参照)と、上記3点を確実に実行すれば、メーター級であっても、高い足場から、一人で比較的簡単に取り込めます。右ハンドルの人は「右手でラインの詰めとロープの詰めを行うことができるようになること」が本ギャフのスタートです。手は2本しかないのに、操作対象物は3点(ロープ、ハンドル、ロッド)ある訳ですから。向上したいと思うなら、当方が出している各ビデオ及び本文で、ギャフ投入からランディング終了までの両手及び両手の指の動きをしっかりと見て勉強すべきです。

今まで出している各ビデオと同じ様に手及び指を動かせば、誰であっても同じ結果になるはずですが、商品が届いたら、テーブルの上に立つとか、外の階段の踊り場の所でやるのか、ビデオ及び本文を見ながら、手の動きを確認し、シミュレーションをやるべきです。そんな事もしないで、袋に入れたまま、現場に持って行って、いきなり本番というのは、「一生に一度の大物—プレッシャー・・・手2本に操作対象3点、ロープ操作にも慣れていない・・・頭の中真っ白、パニックって何もできず、ジエンド」となりかねません。

各ムーブで指を指定しましたが、分かりやすいように、例示したもので、絶対的なものではありません。当方のビデオを見返してみましても、その時々でやり易いように無意識にやっているもので、厳密に同一ではありません。同一な点は、一本の手で二つの事をやっているという点です。「ロープを保持しながらリールを巻く」とか、「ロッドを持った手の使える指にロープを引っ掛けて一時保持する」とか。ロープは慣れれば操作容易で、手に二役を可能にします。ロープはハンドルと同時に握る事、ロッドと同時に握る事が簡単にできます。この事が、ロープギャフ(本ギャフ)が、通常の棒ギャフに対して絶対的優位を有する最大の要素です。ランディングシャフトを持った手でリールハンドルを回すことは不可能、又シャフトとロッドとを同時に一本の手で持つことも不可能、従って、棒ギャフ方式では、手が最低でも3本必要になります(実際には3本では無理で4本必要・・シャフト操作にフルに2本)。これに対して本ギャフ方式では必要なすべての動作が手2本=1人で完結できる訳です。以上説明した内容を理解し、使いこなして下さい。